

受講番号 19036 学校名 高岡高等学校定時制 氏名 武中 淳正

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 13名
科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 Viva EnglishⅠ

クラスの様子・特徴

男子7名、女子6名、計13名、全体のうち3名が中学校時不登校の生徒である。他の生徒は他高校を中途退学した生徒や、中途退学後数年が経過した生徒もいる。多くの生徒は英語に対して苦手意識を持っており、「嫌な教科」というイメージが強い。

問題の確定

生徒たちが苦手意識を克服するためには、まず基本的な語彙を身につけさせなければならない。

予備調査

A 授業の観察

授業の最初に教科書の新出単語・熟語を中心に音読や意味の確認を行っている。声を出して読めない生徒や、スペリングを覚えるのが苦手な生徒もいる。授業中は、ふざけたりすることはなく、落ち着いて授業に参加できている。

B 生徒による授業評価

4月のアンケートでは、「今まで学習した英単語をどのくらい覚えているか。」の問いに、50%1名、30%8名、ほとんど覚えていない4名であった。授業については、ゆっくり進んでほしいと答えた生徒が13名中8名であり、考慮しなければならない。

C 学力データ

第1回単語テスト(教科書より)平均点46点、中間テスト平均点63点、期末テスト平均点54点であった。Be動詞と一般動詞が完全に理解できていないことや、不規則変化の動詞が十分理解できていないことから期末テストでは平均点が9点下がった。

リサーチ・クエスト

基礎的な語彙力をつけさせることによって苦手意識を払拭し、自分もできると自信をもたせるには、どのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

ポートフォリオ的な英語学習記録ファイルを作り、既習事項を振り返ることで学習の定着が図れるだろう。

実践1

各自に学習記録ファイルを持たせ、配布したプリント類や宿題、練習問題、テスト用紙などをファイルして毎時間授業に持ってこさせた。教科書の学習事項に入る前に、ファイルに綴じてある練習問題や説明事項を振り返り、復習や確認をした後で教科書に戻るという指導法を取り入れた。

検証1

生徒たちも容易に既習事項を振り返り学習ができるようになってきた。また、テスト類も綴じているため、自分自身の学習状況を把握できている生徒も多くなってきた。プリント類をなくすこともなくなり復習が容易にできるようになった。入学時より英語がわかるようになってきたという生徒が12名中11名。少しずつではあるが、苦手意識をなくすということでは、一定の成果が表れているように思われる。

仮説2

中学校用の単語集を持たせて学習をさせることで、語彙力を向上させることができるだろう。

実践2

中学校既習の400語程度の単語集を作り、生徒に配布した。9月に第1回目の基礎確認テストを行い、11月初旬と11月の最後の授業で第2回、第3回の確認テストを行った。また、平常の授業時に単語集の見開き分の中から、特に説明や発音指導が必要なものについて数分程度単語学習を行い、少しでも単語を覚えるための機会をつかった。

検証2

アンケート結果では、少しずつ単語が身につけているという生徒が13名中8名。以前より単語を読めるようになったという生徒が13名中10名。単語確認テスト前の1週間くらいは、休み時間などに単語集を開く生徒も見られるようになった。確認テストの平均点は1回目(9月27日)15点、2回目(11月2日)30点、3回目(11月30日)34点と向上した。

仮説3

教科書に出てくる新出単語・熟語の発音や意味の確認を毎時間行い、語彙力をつけさせることで、苦手意識が少しずつなくなるだろう。

実践3

教科書の単語・熟語の練習プリントを作り、各Lessonの最初に英単語やその意味を書き込ませた。その後の授業では、学習記録ファイルに綴じてある練習プリントを開き、最初の数分程度を発音や、スペリングの確認するための時間をとった。特に発音練習に時間を割いた。また、教科書本文の音読も多くの時間を取り、できるだけ多くの生徒に読ませる機会をつかった。

検証3

単語の発音練習と意味の確認を毎時間行った結果、単語が読めるようになったと感じている生徒が増えた。また、各Lessonの単語テストを2回実施し、中間テスト前の第1回目の平均点が55点、期末テスト前の第2回目が62点であった。13名中8名が1回目より2回目の点数があがった。入学時にはほとんど教科書が読めなかった生徒も、少しずつ声に出して読もうと努力する姿勢が見られるようになってきた。

研究の成果

今回のリサーチクエスト「基礎的な語彙力をつけさせることによって苦手意識を払拭し、自分もできると自信をもたせるには、どのような指導をすればよいか」ということで研究を進めてきた。生徒への振り返りシートの集計では単語が身につけていると答えた生徒が66%、単語を以前より読めるようになったと答えた生徒は83%、入学時と比べて英語がわかるようになったと答えた生徒が92%という結果になった。「苦手意識を払拭し、自信をもたせる」という部分では、ある一定の成果があったと捉えることができるかもしれない。

今後の授業改善の課題

定時制という時間的制約が多い中で、単語学習の時間を確保したことで、授業そのものが非常に窮屈になり、授業を駆け足で進めてしまうという結果になった。また、3割近くの生徒が定期試験や各種単語テストでも伸び悩んだ。今後の課題としては、多少なりとも単語を覚えることで英語に対する自信をつけた生徒たちに、さらにフレーズやセンテンスを暗唱させるなど次のステップに導いていくにはどのようにすべきか、リサーチを続けなければならない。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-852-1168

電子メール